

## 【保育士ヒアリング】

日時：R1年11月21日（金） 場所：中城村役場

出席者：○保育士 ○企画課 ○(株)エスティ環境設計研究所

打合せの目的：計画書の各課回覧について

- 保護者の家庭状況として、父親が倒れて急に経済状況がひっ迫したという例があった。年度の途中であったため、補助等も受けられず、そもそも役場に相談してもどうしていいのかがわからなかった。たまたま知り合いに社協のスタッフがいたため、フードバンクの制度を活用することで助かった。子どもに関する様々な問題や悩みに対して、この人に相談したらというスタッフを配置してほしい。こども支援課ができればそこに相談すればいいという一本化。ワンストップの仕組みが必要。
- 保育士が慢性的に不足している。他の市町村では独自で保育士への補助を行っているが、中城は何もない。保育士が少ないということは相対的に一人当たりの仕事量が多くなる。根もままでは条件のいいところに流れていくという悪循環となる。保育士に対しての補助金を検討してほしい。
- 保育施設の維持管理については、私立保育所への補助も検討してほしい。
- 新庁舎建設をひとつの契機として、吉の浦周辺を村の中心として考えていくだろうが、サッカー等も誘致する中で、宿泊施設がないことが問題ではないか。保育園のイベント等でも使いたい。例えば少年の家等の施設があればいい。現状はこうした施設がないため、村外へ行っている状況である。
- 吉の浦会館のキャパが小さい（ホールの客席数等）。園の発表会などのイベントは宜野湾市の施設を借りているが、市内の園が優先されるため、スケジュールリングが難しい。
- 運動会でゲートボール場を使っている。他の市町村ではこうした施設を利用する際には、電気を使えるのに、中城村は利用できないことになっている。自家発電が原則。現在は隣接する民家からボランティアとしてのご厚意で借りている。改善してほしい。
- 保育士の待遇の話が出たが、保育士だけではなく、働いている職員全員の待遇改善も併せて考えなければならない。
- 健康保健課と連携して、保護者と保護者に対する支援、教育、講演会等を実施している。保護者を教育するプログラムの充実が必要。園で実施しても親の理解が少ない。無償化がスタートして、預けないと損という意識が生まれている。子育てという期間を大切にするという基本の部分を理解してもらう必要がある。
- 村には障害児支援センターがない。保育園で受け入れ判断できない子どもたちを対象として。療育施設といった方がいいかも。例として、宜野湾の施設に参加している親子もいる。
- 障害者通所支援事業という名称であり、専門性のあるアドバイスを行けることができるというものである。療育センターでは、重度の障害を持った子どもたちを支援する。小中学校における学校での特別支援学級の位置づけである。
- 浦添市においてはタンポポ園通所施設というものがあり、これは社協がやっている。
- 身体障害者施設は県内にも少ない。
- 障害がある子ども2人に1人の保育士が必要となっており、加配でつける対応。現在村の補助としては190万/1人。しかし、通常の保育でも職員が足りない状況にあり、加配保育士の確保となればなおさらである。中城村の施設で働きたいという環境づくりがもっと必要。
- 問題のある子どもはここ数年増えてきており、その傾向は今後も続く。（人口の増加に対して比例）

- 通所支援では、保育士よりもワンランク上（別の資格を有した心理士等のことか？）、専門性に沿った対応ができる。心理士、保健師がきめ細やかに対応してくれている。臨時職員から正規職員になりとてもよかった。
- 保育所等訪問支援ということを実施しているが、これは問題がある子がいれば、心理士、保育士と一緒に巡回するというもの。ただし、これは通所支援の中の1事業に過ぎない。
- 貧困対応の職員が臨時職員だが、結局人が変わってしまうと、それまでの積み重ねが何もなくなる。経験や知識をストックしていくということをもう少し重視してほしい。
- 18歳までは子どもである。その間の引きこもり、登校拒否の子どもへの対応は手厚くやっているのか。卒園児で学校に行けない子がいるということがわかっており、気になっている。
- 児童館や子育て支援センターの充実が必要。学童に行っていない子どもたちが、公民館が使えない状況。南上原では隣にだれが住んでいるのかも分からない。子どもたちが集まれる場所が必要。
- 南上原公民館は、現状様々な人が使っている。（ニーズが高く枠が埋まっている）今後は、地域で見守る仕組みづくりが必要であり、その中で、拠点としての公民館の活用も併せて考えていければ
- 琉大工学部の後背の保留地について、村の財産として将来的な活用に使えればいい。
- （子育てしやすい環境として）歩道を意識した道路計画がもっと必要。中城小学校前などが顕著で、子どもが安全に安心して生活できる環境づくりを。
- みどりの施策として、公園、遊歩道、街路樹などの緑環境の充実を図ることで、街の格をあげていく。前掲の歩道のことと併せて、都市計画をしっかりとやっていくべき。
- また、舗装などでもインターロッキングはだめ。ベビーカー、女性のヒールなどが移動しづらい。
- 吉の浦会館を使おうとすると、2か月前利用申請というルールがある。条例改正して、半年や1年前に予約できるようにしてほしい。有名な先生などを講演会に呼ぼうとしても、2か月前ではスケジュールを押さえることは不可能。今のままでは、計画的にプログラムが組めない。
- 上記に附随して申請手続きの簡略化も進めてほしい。
- 保育士の確保が大変なのは、どこの市町村でも共通の課題である。そこで、就職説明会を近隣町村と合同でやってみてはどうか。中城村だけがそういうことをやっていない。
- （保育士の）処遇改善については、村の単独支援がないと勝ち残っていけない。国の補助制度はあるが、村がそれを採用しないと国の制度は活用できない。
- （私は）小規模保育所を解説しようと思ったが、村が国の補助制度を窄託していないためできなかった。結果企業主導型で整備補助をもらったが現時点では認可外である。将来的には、村認定の小規模保育をやりたい。
- 広報誌は月に1回でるが、自治会通じて配るのでスピード感がない。どれくらい人数が読んでいるのかりサーチをやるべきでは。
- 子どもへの対応窓口を一本化するべき。ワンストップサービスを目指していく。今後子ども支援課がそうなるべきだと思う。
- 高齢者活用を推進してほしい。保育現場での補助者として働いてもらえる。子育て支援員基礎的研修を受けてもらい、朝、夜、専門的保育士の横で見守るといったことは可能ではないだろうか。
- 南上原地区に役場支所が欲しい。

- 保幼小連携が薄い。1カ所をモデル的にやってみればいい。必要なものは「まずやってみた」という実績。そこを強化することで、さらに連携できる。
- （私のところでは）0～1歳児を対象とした小規模保育、2～5歳児を対象とした認定こども園で預かっている。例えば、0～1歳で加配が必要ということで人員を配置したが、2～5歳のこども園で加配をつけられない（人材がない）ために、本来であれば小規模からこども園に持ち上げたいという保護者の声もある中で、他の園に転園せざるをえないという状況がある。
- 学校周辺の道路側溝で蓋がない箇所がある（穴が開いている箇所）。ふさぐことができずに落ちる危険性があるため、安全性の確保のために早急な対応をお願いしたい。
- また、除草についても安全性確保の面から細やかな実施をお願いしたい。
- 園の周辺に公園が整備されありがたいが、トイレがない。せめて手洗いの設置はできないだろうか。
- 学童の子どもたちと一緒に公園の草刈りを地域でやりたい。
- ゴミ収集が回数多すぎないか。危険物は月一でいいのでは？
- 防災の観点、下地区。消防と連携して計画たてているがお手上げ、津覇小学校へ避難となっているが、限界がある。
- 防災無線が聞こえにくい。